《研究課題名》
精神疾患の臨床症状に関連する血中マーカーの探索

《研究対象者》
R2019-306「統合失調症患者における L-セリン合成系に関連するアミノ酸の検討」の研究に試料・情報をご提供いただいた方
（具体的には獨協医科大学附属病院において、2012 年 7 月 21 日～2018 年 5 月 31 日の間に、「精神疾患患者における L-セリン合成系とそれに関連するアミノ酸の検討」との表題の研究に協力された方となります。）

研究協力のお願い
滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の DNA、血漿、臨床情報（年齢、性別、診断、初発年齢、罹病期間、内服内容、臨床症状）。臨床症状は認知機能検査（BACS：Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia）及び陽性・陰性評価尺度（PANSS：Positive and Negative Syndrome Scale）にて測定されたものを用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただかず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。
なお、本研究に関するご質問は下記（4）の問い合わせ先へご連絡ください。

（1）研究の概要について
《研究課題名》
精神疾患の臨床症状に関連する血中マーカーの探索

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2028 年 3 月 31 日

《研究責任者》 滋賀医科大学　精神医学講座　尾関祐二

（2）研究の意義、目的について
《意義》
統合失調症の原因を探るとともに、将来の病気の克服や予防につながることが期待されます

《目的》
精神疾患で変化する血液中の指標があるかどうかを調べます。

（3）研究の方法について
《研究の内容》
近年、統合失調症や双極性障害・うつ病など多くの精神疾患における免疫系の異常が指摘されています。
我々はこれまでに、ナルディライジン（nardilysin, NRDC）というタンパク質が、炎症性疾患、がん、急性冠症候群などの病態に関わっており、治療標的分子として、さらに疾患バイオマーカーとして有用である可能

©Shiga University of Medical Science Research Ethics Committee.

性を発表してきましたし、抗うつ薬の治療効果を予測する因子として有用である可能性が指摘されていますが、その結果は大まかなものです。

以上から我々は NRDC に注目し、うつ病をはじめとする、統合失調症や双極性障害、不安障害など精神疾患全般における血中濃度を網羅的かつ縦断的に測定し、実際に NRDC が精神疾患における治療効果を予測するのかどうかを調べることとしました。精神疾患の治療効果を予測する方法はありませんので、もし NRDC が治療効果の予測と関係することが明らかになれば、将来精神科治療を変える可能性があります。

なお、本研究で測定した NRDC のデータについては、研究整理番号 R2019-306「統合失調症患者における L-セリン合成系に関連するアミノ酸の検討」の研究でも使用されます。

《利用し、又は提供する試料・情報の項目》

DNA、血漿、臨床情報（年齢、性別、診断、初発年齢、罹病期間、内服内容、臨床症状）。臨床症状は認知機能検査（BACS：Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia）及び陽性・陰性評価尺度（PANSS：Positive and Negative Syndrome Scale）にて測定されたもの。

※上記につきましては、R2019-306「統合失調症患者における L-セリン合成系に関連するアミノ酸の検討」の研究にご提供いただいたものであり、本研究にも利用させていただきます。

《試料・情報の管理について責任を有する者》

国立大学法人 滋賀医科大学

（4）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 精神医学講座　　氏名 尾関祐二
住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
電話番号： 077-548-2291
メールアドレス： hqpsy@belle.shiga-med.ac.jp

©Shiga University of Medical Science Research Ethics Committee.